

土木費

〔質疑〕スクールゾーン内危険ブロック塀等除却事業補助金について、2件分30万円の予算が計上されているが、本市のスクールゾーン内での危険ブロックは現在どのくらいと見込まれているのか。

〔答弁〕危険であるか否かを判断する詳細な調査については、今後、建設課を通じて宮城県土木事務所において調査することになるが、現段階で調査対象は385件となっている。

消防費

〔質疑〕備品購入費として、消防団員へのヘルメット購入費54万円が計上されており、その個数は100個とのことだが、団員の数は600名以上である。

団員全員に配付するとすれば、年次計画ということになると思うが、計画はどのように考えているのか。

〔答弁〕現在の消防団員数は608

名であるため、単純に計算すると6年かかることになるが、今回認められた消防団員等公務災害補償等共済基金の補助金などを今後も積極的に申請し、装備の充実を図っていきたいと考えている。

教育費

〔質疑〕遠藤家・中島家文書のうち「幕末、明治編」が完成することから予算が計上されているが、その内容、印刷部数について伺う。

〔答弁〕資料については、戊辰戦争から150年の記念の年であるということ、幕末から戊辰戦争関係の文書が収録されているものを印刷する。

部数については600部ほどを予定しており、一般頒布も考えている。

スマートインターチェンジ設置推進特別委員会中間報告

- 委員長 四竈 英夫
副委員長 菅野 恭子
委員 保科善一郎・澁谷政義
大野栄光・菊地忠久
松野久郎・佐久間儀郎

定例会初日(9月3日)、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会の活動経過について、四竈英夫委員長より中間報告がなされました。
報告の内容については、次のとおりです。

平成30年8月8日に委員会を開催し、関係部課長の出席を得て、スマートインターチェンジ設置に向けた現状について報告を受け、議員共通の認識を深め、当局との情報の共有を図るとともに、今後の進め方について協議した。
会議において、当局より、これまでの検討経過について、本年3月に「スマートインターチェンジ整備に関する庁内検討会議」、6月に国土交通省東北

地方整備局仙台河川国道事務所、ネクスコ東北日本東北支社、宮城県等、関係機関との勉強会の開催に向けた打ち合わせを行い、また、7月には白石消防署及び大鷹沢工業団地企業へのヒアリングを実施し、整備効果の具体性、精度を高めるため、高速道路利用の実態把握を行なったとの報告があった。

また、スマートインターチェンジの整備効果について、県内のスマートインターチェンジを例に挙げ、高速道路へのアクセス性の向上により「観光の活性化」「産業の活性化」「救急医療の迅速化」が期待できるとの説明があった。

本委員会の今後の進め方としては、スマートインターチェンジの設置については、多くの段階を踏まなければならず、かなりの時間を要することから、引き続き当局との情報共有、意見交換を行う等、時宜を得た活動により、本事業の円滑な推進を図っていくことを確認したところである。

白石市議会会議録を公開しています。

白石市議会 会議録

検索

市議会のホームページに会議録を公開しております。
このページでは、【ことばで探す】を選ぶと、キーワード入力により効率よく目的の会議録を探すことができます。
また、注目のキーワードとして【介護保険】【きょうするくん】などその言葉をクリックするか、会議・発言者・期間で探すこともできます。どうぞご覧ください。



四竈委員長の中間報告